



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

トムソン・ロイターのファイナンシャル・リスク部門の名称はRefinitiv(リフィニティブ)に変わりました

知りたい
投信 なるほど
リップパー

リップパーのESGスコアが提供開始 業績だけで評価されない時代へ

金融市場で、ESGへの関心が高まっています。ESGとは、「Environment（環境）」「Social（社会）」「Governance（企業統治）」の頭文字。環境保護や社会的な課題、適正な管理監督に取り組む企業には、優れた経営と評価されて投資資金が集まってきます。

「金融」は、お金を融通するしくみ。投資家の資金を、必要なところへ届ける役割を果たします。環境に悪影響を

及ぼす気候変動への対策、人権保護や格差解消に積極的な企業への投資もその一つ。透明な経営の企業も、持続的な成長が期待できます。

投資信託でも、ESGに積極的な企業の株式や債券を組み込んだ「ESG関連投信」に資金が集まっています。特に7月に新規設定された「グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド（為替ヘッジなし）」は、募集開始から7月末までに4000億円強の

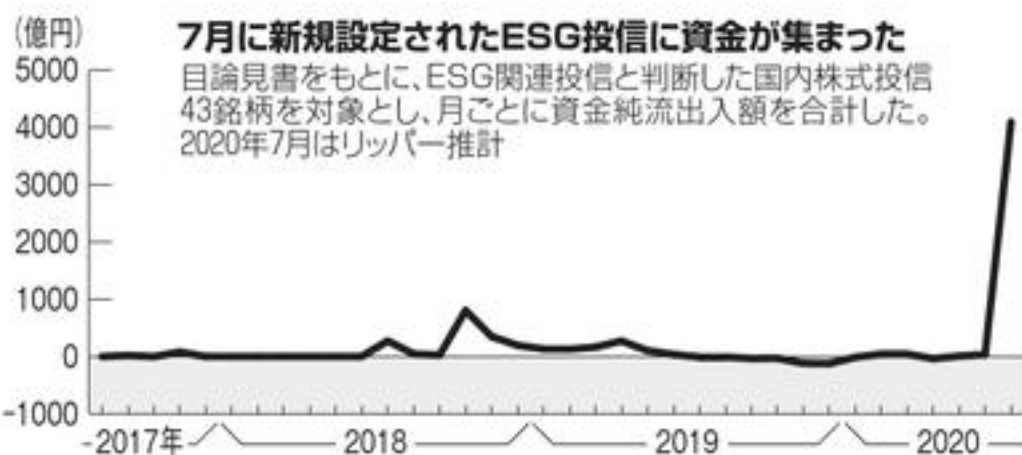
資金を集めました。グラフは、国内で販売されているESG関連の投信43本の資金動向です。

「ESG」は、これまでも話題になってきました。2017年に、公的年金の積立金を運用する年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESGの指数に連動する運用を取り入れ、18年にはESG関連投信が増えました。

ですが、残念なことに、利益重視のムードが高まると、ESGから資金が流出する傾向です。ESGへの取り組みは、客観的な評価が難しい分野。企業の売り上げや利益と違い、数字で比較しにくい面

があります。

リフィニティブでは最近、「リフィニティブ・リップパー・ファンドESGスコア」の情報提供を始めました。運用する株式の企業情報などから、投信のESGを総合評価します。ESGに貢献する面を「ESGスコア」、悪影響を及ぼす面を「不祥事スコア」とし、二つを合わせて「統合スコア」とします＝図。スコアの提供開始から日が浅く、評価対象となっている投信はまだ少なめ。今後、多くの投信にESGスコアがつき、個人投資家のみなさんの判断に役立つことを期待しています。



リップパー・ファンドESGスコア

「One ETF ESG」(銘柄コード1498)の場合(7月末時点)

統合スコア	ESGスコア	Environment(環境)	72.51
	69.26	Social(社会)	67.84
	不祥事スコア	Governance(企業統治)	67.56
63.91	80.92		

環境(E)、社会(S)、企業統治(G)の三つの柱で企業や銘柄を評価している。10の主要テーマ(排出量、環境製品の革新性、多様性と受容性、人権、株主など)について、相対的な実績、関与、効果を計ってESGスコアを決定し、不祥事スコアとともに加重平均化して統合スコアを算出する